

## 膵癌および膵嚢胞性疾患患者の臨床背景と予後に関する研究

分担研究者 田守 昭博 大阪市立大学准教授

研究要旨：膵嚢胞性疾患は、膵癌の前癌病変である可能性がありそれを有する患者の取り込みは重要な課題である。一方、膵嚢胞による特異的な自覚症状はなく、健診や他疾患での画像検査において初めて膵嚢胞の存在を指摘される。今回、当院にて膵嚢胞を指摘された症例の背景を解析するとともに臨床現場における膵嚢胞疾患の対応を調査した。また膵嚢胞疾患からの膵癌への進展を前向きに解析するための臨床研究を企画し、臨床マーカー検索のためのサンプル収集とデータベース作成に着手した。

### A．研究背景と目的

膵嚢胞性疾患、中でも膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）は前癌病変と考えられているが、自覚症状を呈することが極めて稀である。その存在は、健診や他疾患で実施された腹部画像検査（腹部超音波検査（US）、CT、MRI）にて偶然診断されることが多い。本研究の対象である膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）患者の取り込みには、膵嚢胞性疾患の拾い上げが重要である。そこで本年度は当院にて膵嚢胞性疾患の存在を指摘された患者の臨床背景を調査し、診断の契機となった病歴・併存疾患について解析した。また対象例を登録して前向きに追跡する臨床研究を企画した。さらに膵嚢胞性疾患から膵癌への進展を診断する臨床マーカー探索のため、膵癌症例、膵嚢胞性疾患例のサンプル収集とデータベース作成を開始した。

### B．研究方法

本班研究を遂行するため、病院輸血部肝炎センターにサンプル収集とそれとリンクしたデータベース作成を行う分門を設置した。外来・病棟にてサンプル提供を呼びかけ同意を得た対象は、2014年6月から2015年1月までに大阪市立大学病院の通院患者の内、膵嚢胞性疾患の存在を指摘された107例である。また膵癌と診断された52例と臨床背景を比較検討した。膵嚢胞性疾患例の内訳は男性51例、女性56例であり年齢の中央値69歳（36歳—88歳）。一方、膵癌例の内訳は男性32例、女性20例であり年齢の中央値68歳（46歳—81歳）。

### C．研究結果

膵嚢胞性疾患例の臨床背景は、飲酒歴あり：52(49%)、糖尿病合併：31(29%)。一方、膵癌例では飲酒歴あり：52(38%)、糖尿病合併：31(40%)。膵癌例の内、3例において既往に

膵嚢胞のため通院していた病歴を確認した。

### D．考察

膵嚢胞性疾患例では、飲酒歴を有する患者が半数存在していた。飲酒が膵嚢胞の発症に関係していると考えより、飲酒が受診の契機となり、腹部画像検査にて膵嚢胞の存在が診断されたものと推測される。無症状の膵嚢胞生疾患例を取り込むことが今後の課題と考える。初年度に膵嚢胞性疾患を診断し登録できた症例について追跡を開始した。膵癌症例も含めて経時的にサンプル収集を行い、診断・予後等の詳細な臨床推移をデータベース化する計画である。

### E．結論

慢性肝疾患例、胆道疾患におけるスクリーニング検査から膵嚢胞性の合併例を抽出し、膵癌への進展に関する前向き研究への登録を開始した。

### G．研究発表

#### 1. 論文発表

1. Hai H, Tamori A, Kawada N.  
Role of hepatitis B virus DNA integration in human hepatocarcinogenesis.  
World J Gastroenterol. 2014 May  
28;20(20):6236-43.

2. Tamori A, Hino M, Kawamura E, Fujii H, Uchida-Kobayashi S, Morikawa H, Nakamae H, Enomoto M, Murakami Y, Kawada N.  
Prospective long-term study of hepatitis B virus reactivation in patients with hematologic malignancy.  
J Gastroenterol Hepatol. 2014  
Sep;29(9):1715-21.

#### 2. 学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）  
特になし。

## 別紙 3

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ペー ジ	出版年